

2018年10月23日

経済レポート

グラフで見る東海経済(2018年10月)

調査部 主任研究員 塚田裕昭

【今月の景気判断】

東海経済は回復基調で推移している。

項目	現状（10月）	前月
1. 景気全般	回復基調	-
2. 生産	増加基調	-
3. 輸出入	輸出入とも横ばい	-
4. 設備投資	増加している	-
5. 雇用	改善している	-
6. 賃金	持ち直している	持ち直しの動きがみられる
7. 個人消費	持ち直しの動きがみられる	横ばい圏で推移している
8. 住宅投資	持ち直しの動きがみられる	横ばい圏で推移している
9. 公共投資	増加している	-

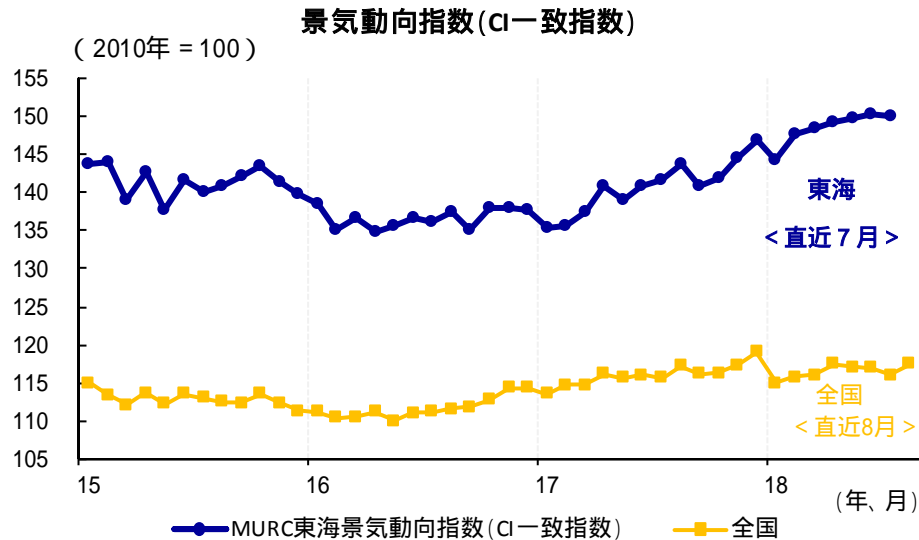
(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目
 前月のコメントが現状と同じ場合は-と表記

【今月のポイント】

- ・8月の生産は2ヶ月ぶりに減少。電子部品デバイスが大幅減に寄与した。先行きは、9月に東芝メモリ四日市新製造棟が竣工したこともあり、増加基調が続くとみられる。
- ・賃金、個人消費、住宅投資など家計部門にも改善の動きがみられる。

1. 景気全般 ~ 回復基調 (先行き: 回復基調)

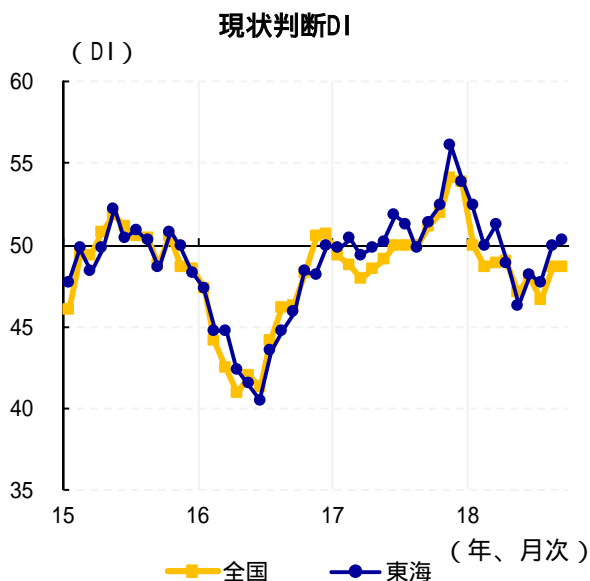
7月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、前月差 - 0.3の149.9と6ヶ月ぶりに低下した。構成項目のうち、大型小売店販売額、金属工作機械指数、有効求人倍率がマイナスに寄与した。



(出所) 内閣府「景気動向指数」、MURC

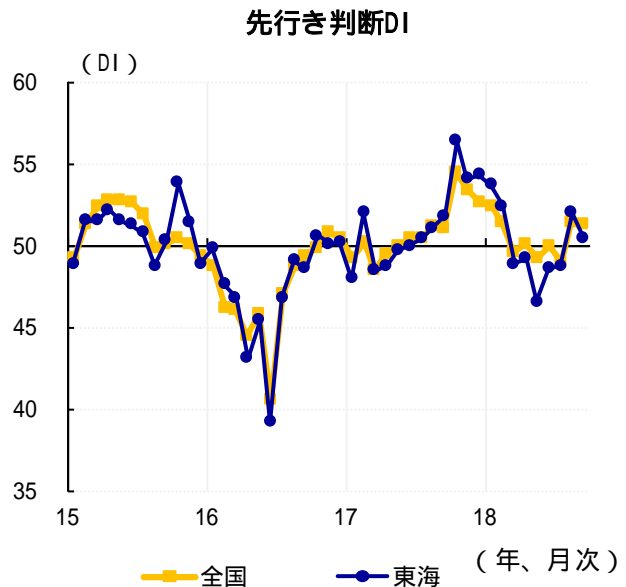
(注) 東海動向指数の採用系列は、鉱工業生産、同(金属工作機械)、有効求人倍率、人件費比率、大型小売店販売額、実質輸入、所定外労働時間の7系列。

9月の東海4県の**景気ウォッチャー調査**は、足元の景況感を示す**現状判断DI**(季節調整値)が前月差 + 0.4ポイントの50.3と2ヶ月連続で上昇した。東海の景気マインドは持ち直しの動きが見られる。一方、**先行き判断DI**(同)は同 - 1.6ポイントの50.4と4ヶ月ぶりに低下した。

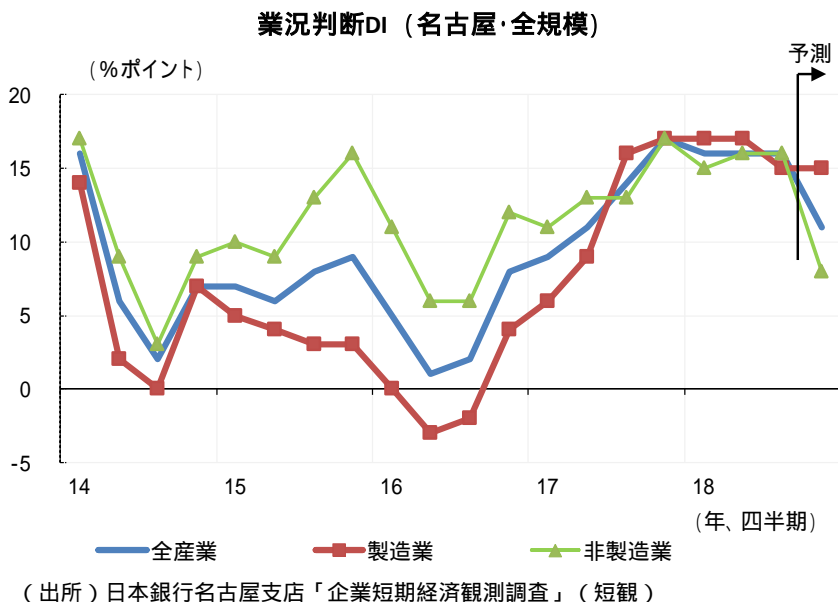


(注) DIは季節調整値

(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

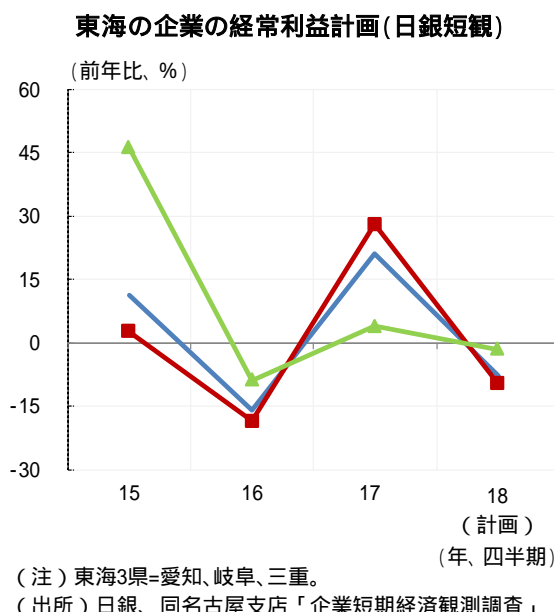
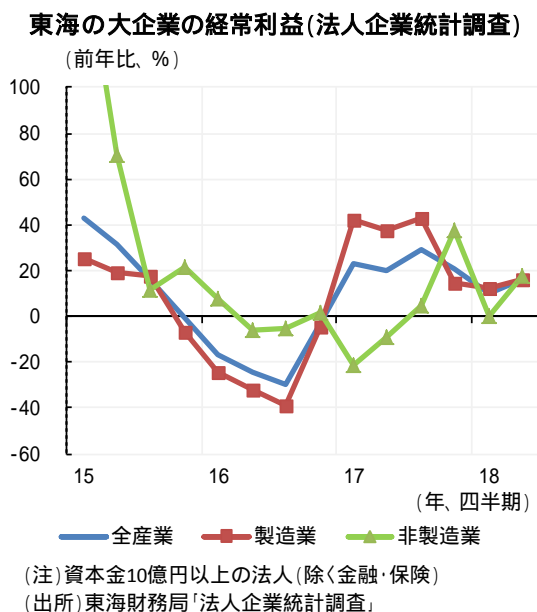


日銀短観9月調査によると、東海3県の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模](+16)、非製造業[全規模](+16)がそれぞれ横ばい、製造業[全規模]では+15と2ポイント低下した。先行きについては、製造業は横ばい、全産業、非製造業では悪化が見込まれている。



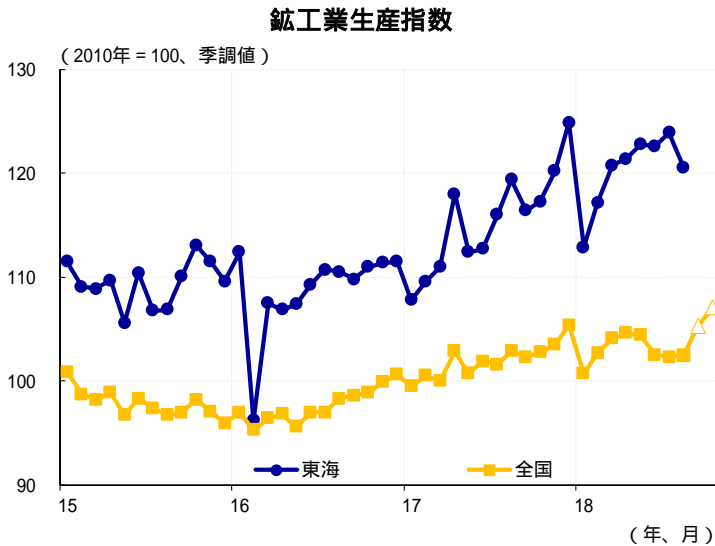
法人企業統計調査によると、2018年4~6月期の東海4県の大企業の**経常利益**(全産業)は前年比+16.4%と増加した。製造業は同+15.9%と前期並の伸びとなる一方、非製造業は前期のゼロ近傍から同+17.5%へ加速した。**日銀短観9月調査**では、東海企業の18年度の経常利益は全産業で同-7.7%(前回6月:同-8.7%)と減益が見込まれている。非製造業は前回の同+1.5%から同-1.6%へ減少に転じたが、製造業が同-9.7%(前回:同-12.1%)と減少幅が縮小した。

(法人季報については前号から変更なし)



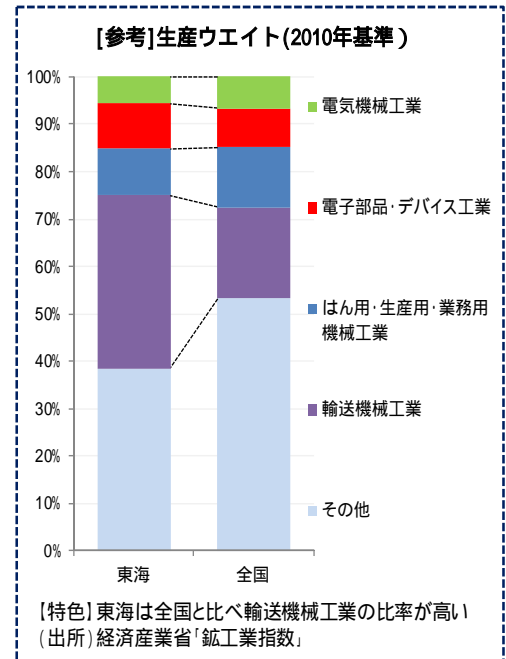
2. 生産 ~ 増加基調 (先行き: 増加基調)

東海の実績は振れを伴いつつも、増加基調で推移している。8月の東海3県の**鉱工業生産**は、前月比 - 2.8%と2ヶ月ぶりに減少した。輸送機械などはプラス寄与となったが、電子部品・デバイスが大きく減少したほか、電気機械もマイナス寄与となった。

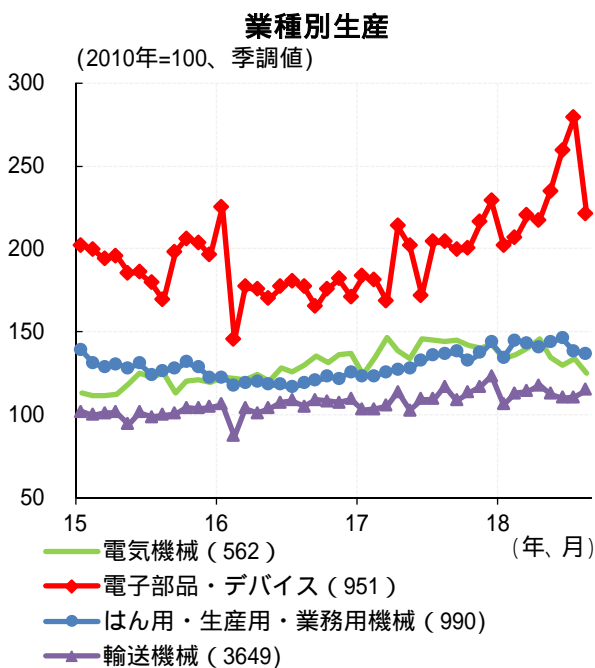


(注) 生産(全国)の「」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。

(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」
経済産業省「鉱工業指数」

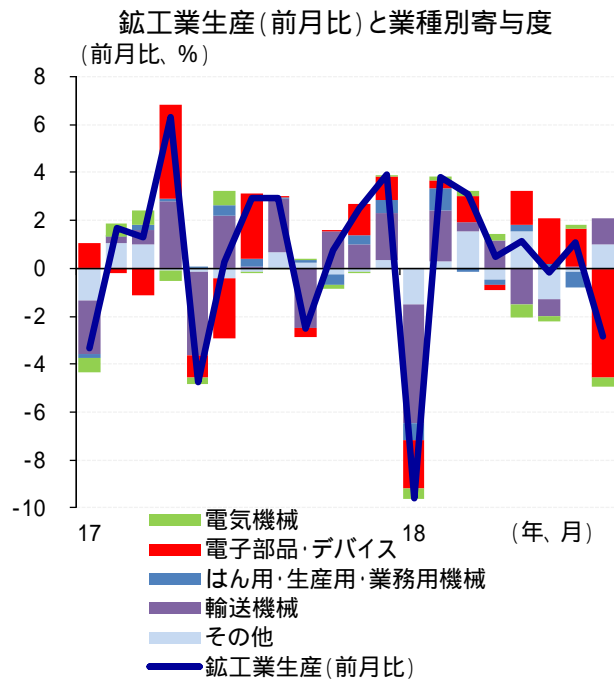


【特色】東海は全国と比べ輸送機械工業の比率が高い
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」



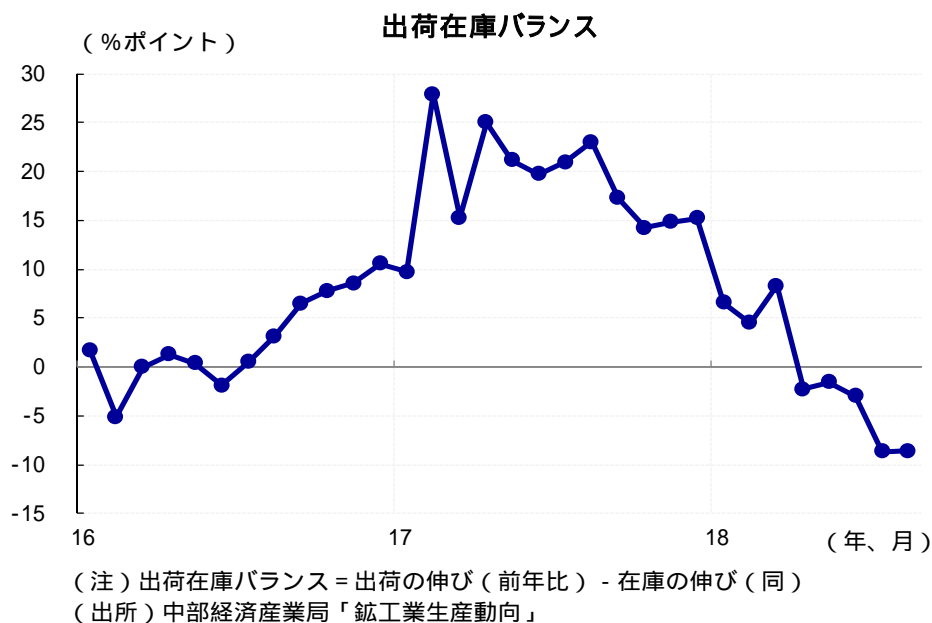
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業 = 10,000)

(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」

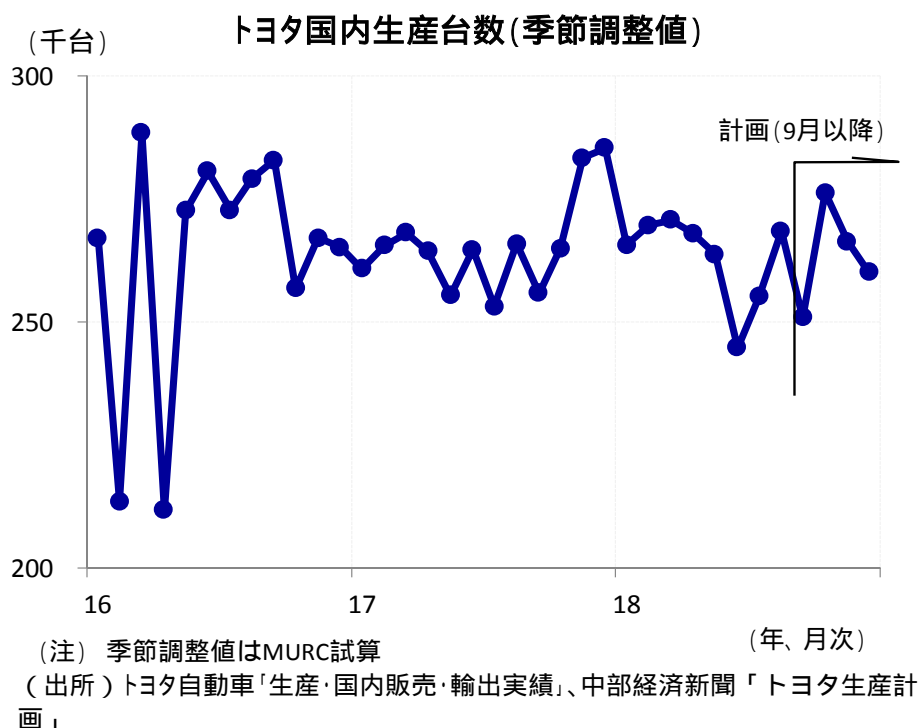


(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」

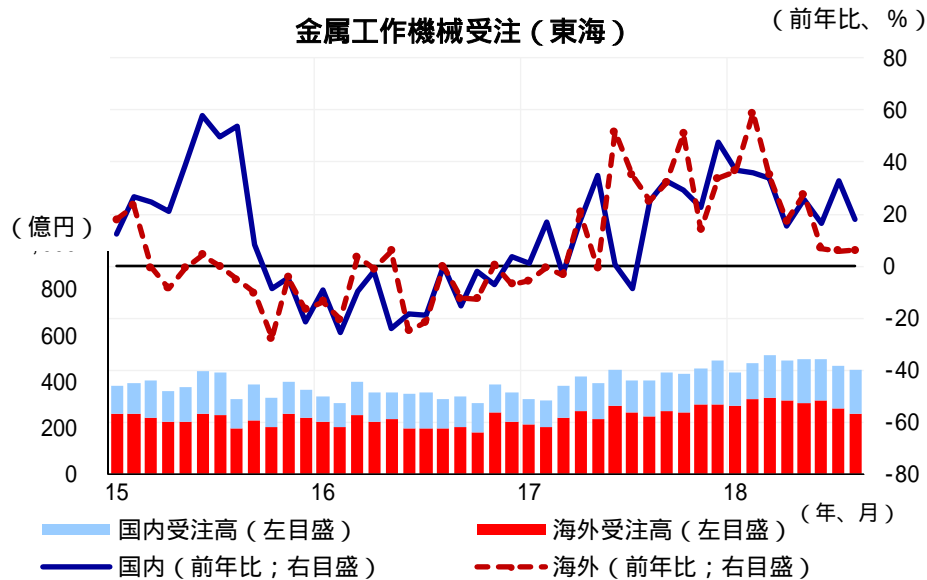
出荷の伸びから在庫の伸びを引いた**出荷在庫バランス**は、8月は5ヶ月連続でマイナスでの推移となった。在庫の増加が続いた一方、出荷がマイナスに転じた。



中部経済新聞社報道の**トヨタ自動車国内生産計画**によると、18年10~12月の国内日当たり生産台数は1万2,000台弱~1万3000台超で推移する見込みである。季節調整済みの数字(MURC試算)で見ると、総じて横ばいの推移が見込まれる。



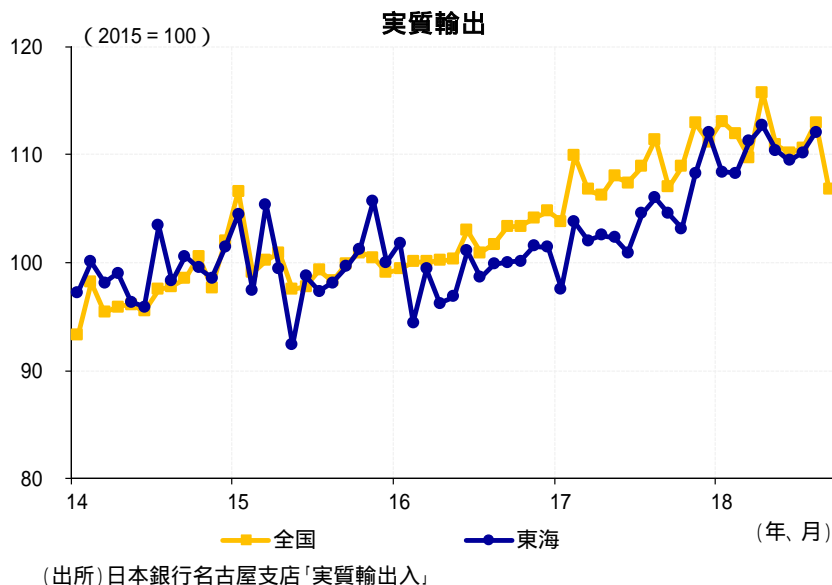
8月の**金属工作機械受注**は前年比+10.6%（国内受注：前年比+17.8%、海外受注：同+6.0%）と2桁増が続いているものの、前月から伸びが縮小した。地域別には、米国向けは同+22.8%と大幅増となったが、欧州向けは同+2.9%と伸びが縮小し、アジア向けは同-8.6%と2か月ぶりに減少、中国は同-4.0%と20か月ぶりに減少した。



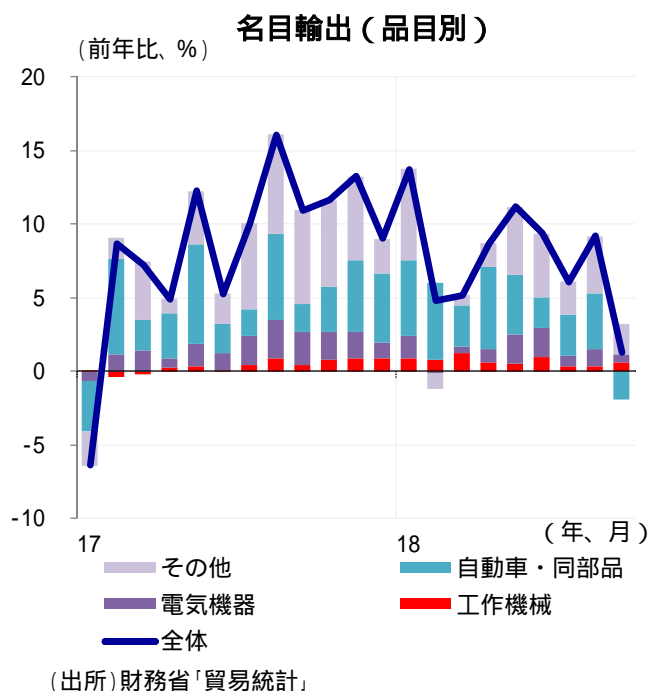
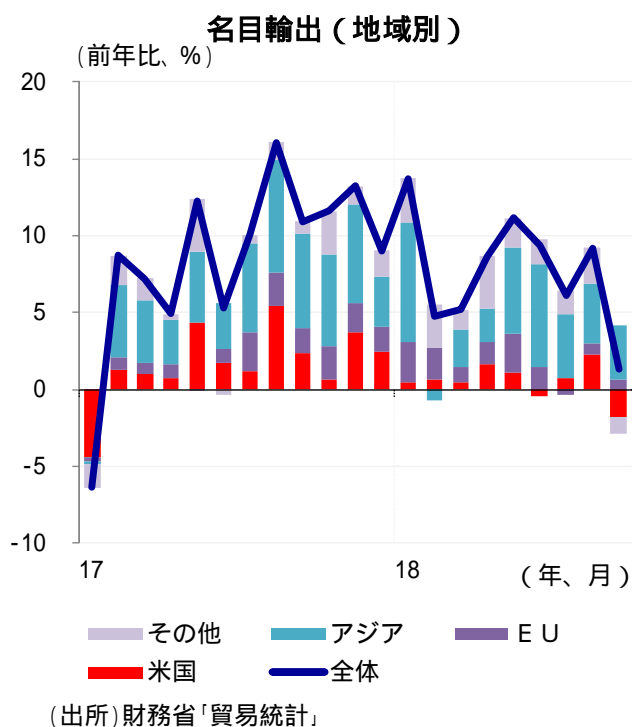
（注）東海は、中部経済産業局管内の主要8社
 （出所）中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

3. 輸出入 ~ 輸出入ともに横ばい (先行き: 輸出は増加基調、輸入は横ばい)

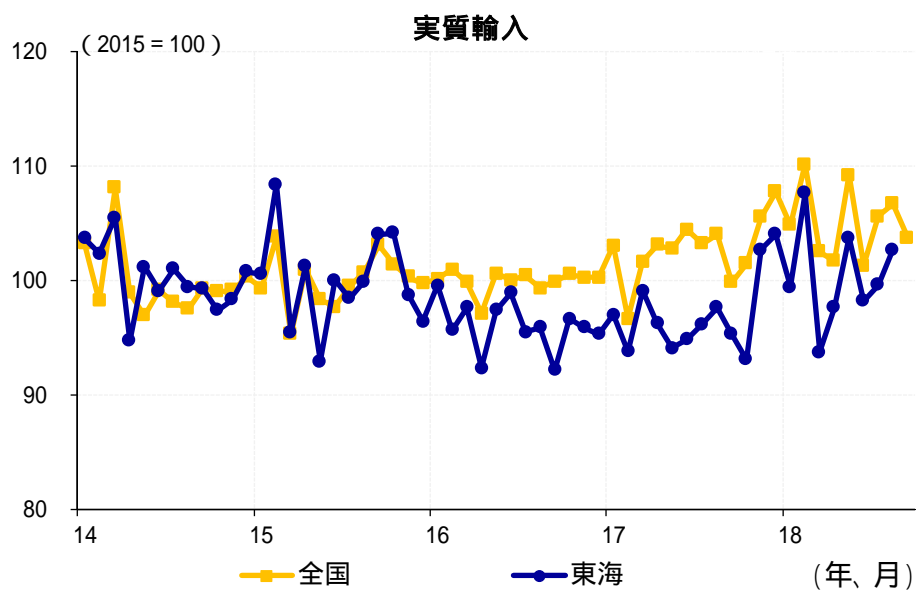
8月の**実質輸出**(季調済)は前月比+1.7%と2ヶ月連続で増加した。東海の輸出は均して見ると横ばい圏で推移している。



9月の名古屋税関管内の**名目輸出額**は前年比+1.3%と20ヶ月連続で増加したが、伸び幅は大きく縮小した。地域別にみると、アジア向けは同+9.7%、EU向けが同+4.4%と増加したが、米国向けが同-6.3%と3ヶ月ぶりに減少した。品目別では、工作機械(同+25.1%)、電気機器類(同+4.1%)は増加を維持したが、自動車(同-7.8%)が14ヶ月ぶりに減少した。



8月の**実質輸入**(季調済)は、前月比+3.1%と2か月連続で増加した。東海地方の輸入は均してみると横ばいで推移している。



4. 設備投資 ~ 増加している (先行き: 増加)

2018年4~6月期の東海4県の大企業の**設備投資**(ソフトウェアを含む)は、前年比+31.0%と大幅に増加した。製造業が同+45.5%と増加幅が拡大し、非製造業も同+12.5%と増加に転じた。季節調整値(MURC試算)の動きを見ると、製造業に牽引される形で着実に増加している。

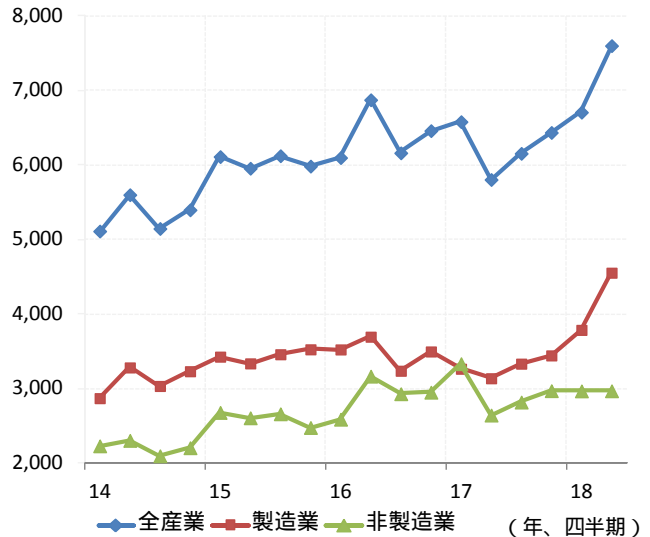
(コメント・グラフともに前号から変更なし)

設備投資の前年比伸び率(全産業、%)

	東海	全国
17年4-6月	-15.1	1.5
7-9月	-0.7	4.2
10-12月	-0.6	4.3
18年1-3月	2.3	3.4
4-6月	31.0	12.8

(出所)財務省「法人企業統計調査」

(億円) 設備投資(ソフトウェアを含む、季節調整値)

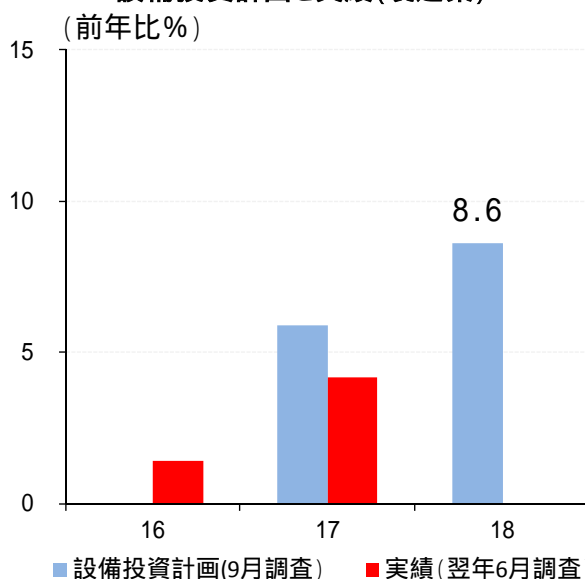


(注)季調はMURC

(出所)財務省「法人企業統計調査」

日銀短観9月調査によると、東海3県の18年度の**設備投資計画**は全産業で前年比+10.3%(6月調査同+10.3%)と、前年実績(同+3.4%)を上回っている。内訳をみると、製造業は同+8.6%(17年度実績:同+4.2%)、非製造業が同+14.9%(同:同+1.5%)となっている。

設備投資計画と実績(製造業)

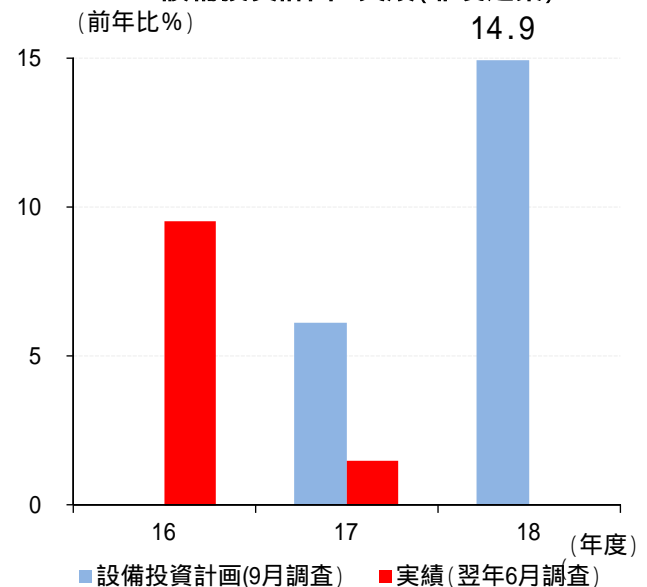


■設備投資計画(9月調査) ■実績(翌年6月調査)

(注)設備投資はソフトウェアと研究開発費を含む。

(出所)日本銀行名古屋支店「短観」

設備投資計画と実績(非製造業)

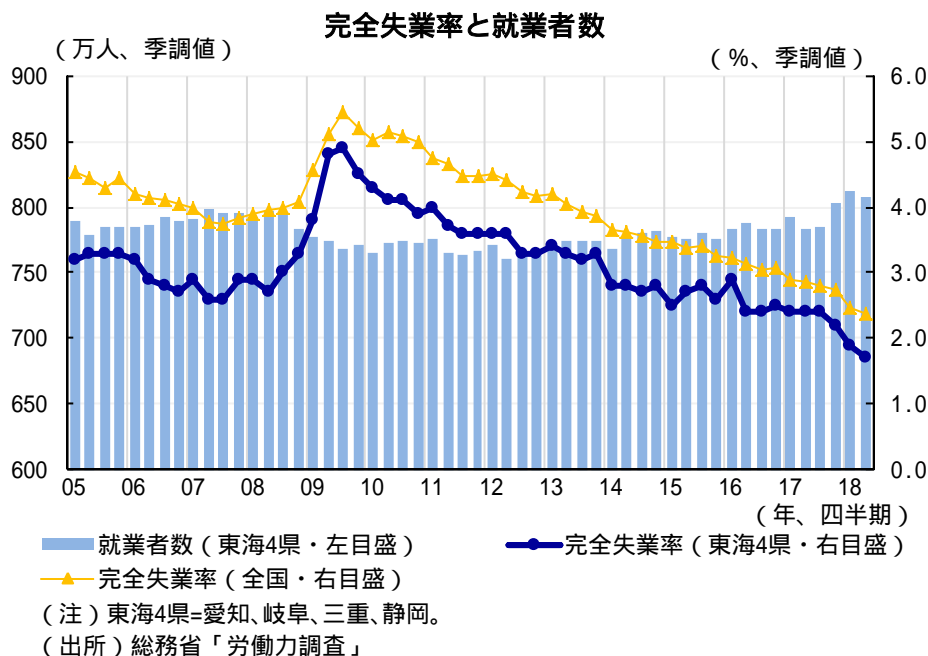


■設備投資計画(9月調査) ■実績(翌年6月調査)

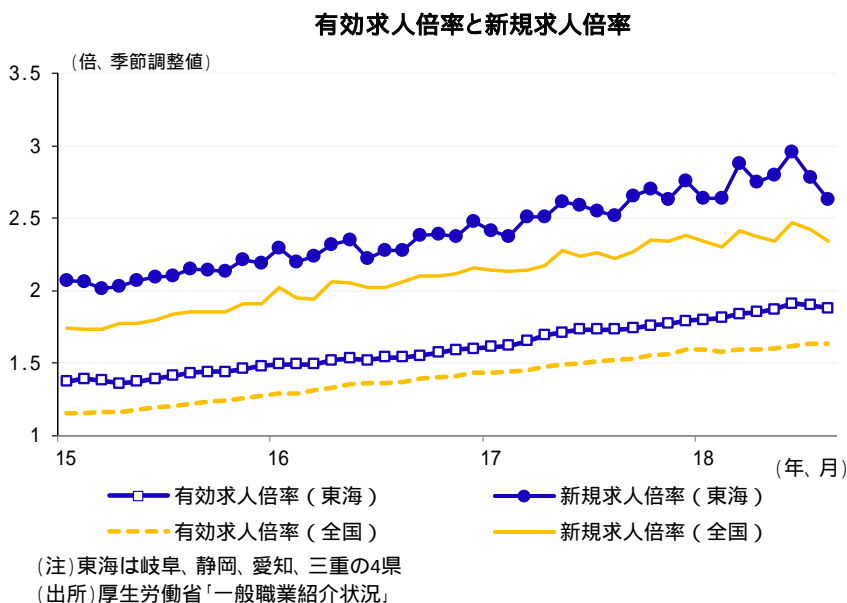
5. 雇用 ~ 改善している (先行き: 改善)

2018年4~6月期の東海4県の**完全失業率**は前期差 - 0.2%ポイントの1.7%と低下、全国(2.4%)水準を下回り、地域別にみても最も低い水準で推移している。同時期の**就業者数**は前期差 - 6万人、完全失業者は同横ばいとなった。

(コメント・グラフともに前号から変更なし)

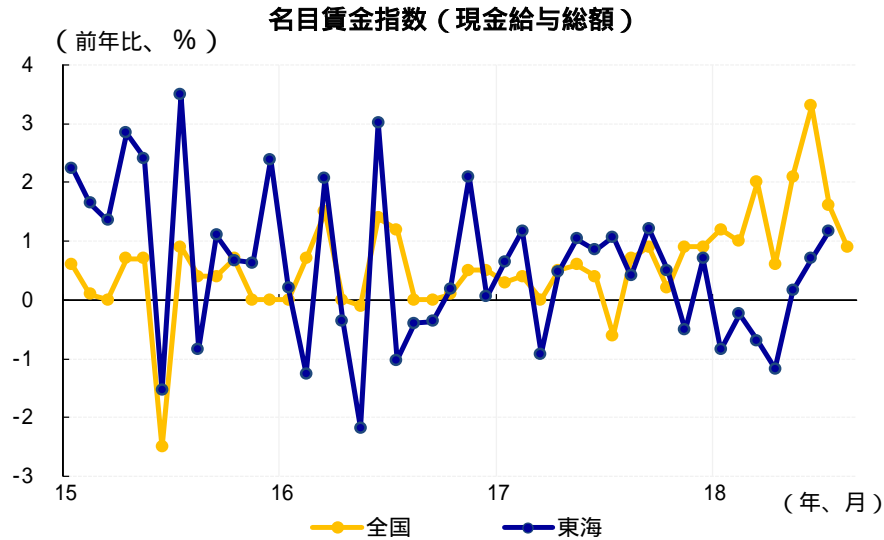


8月の東海4県の**有効求人倍率**(有効求人数/有効求職者数)は1.88倍と前月(1.90)から小幅低下した。前月に続き有効求人数(前月比 - 0.7%)の減少が低下に寄与した。また、有効求人倍率に先行する**新規求人倍率**は、新規求人数が減少(前月比 - 2.1%)したことなどを要因に、2.63倍と2ヶ月連続で低下した。



6. 賃金 ~ 持ち直している (先行き: 持ち直し)

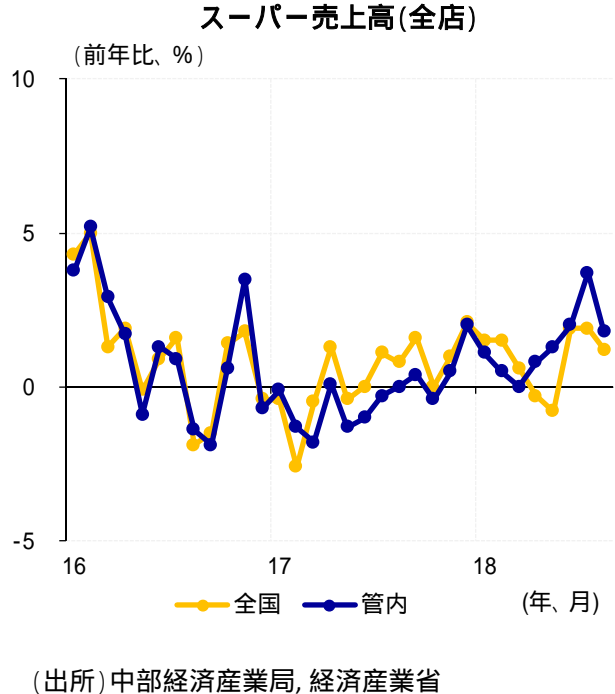
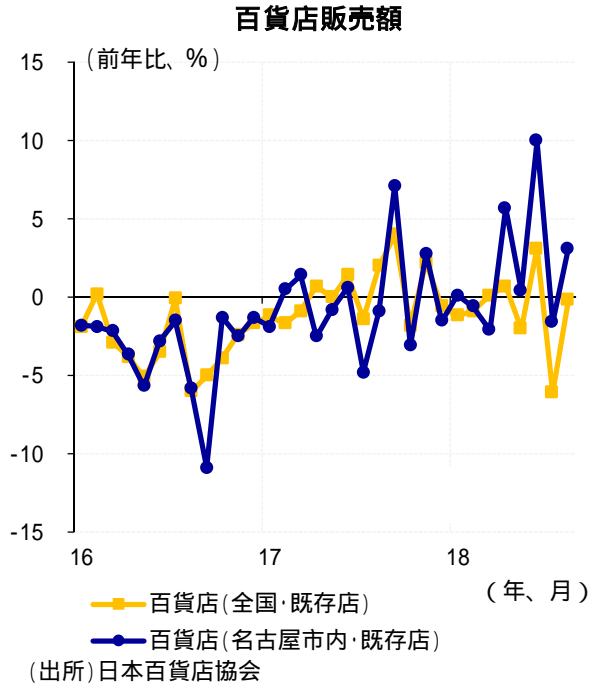
東海3県の7月の**名目賃金指数(現金給与総額)**は前年比+1.2%と、3ヶ月連続で上昇した。常用労働者数の約7割を占める愛知県(同+2.0%)が2ヶ月連続で上昇した。東海3県の賃金はこのところ持ち直しの動きがみられる。



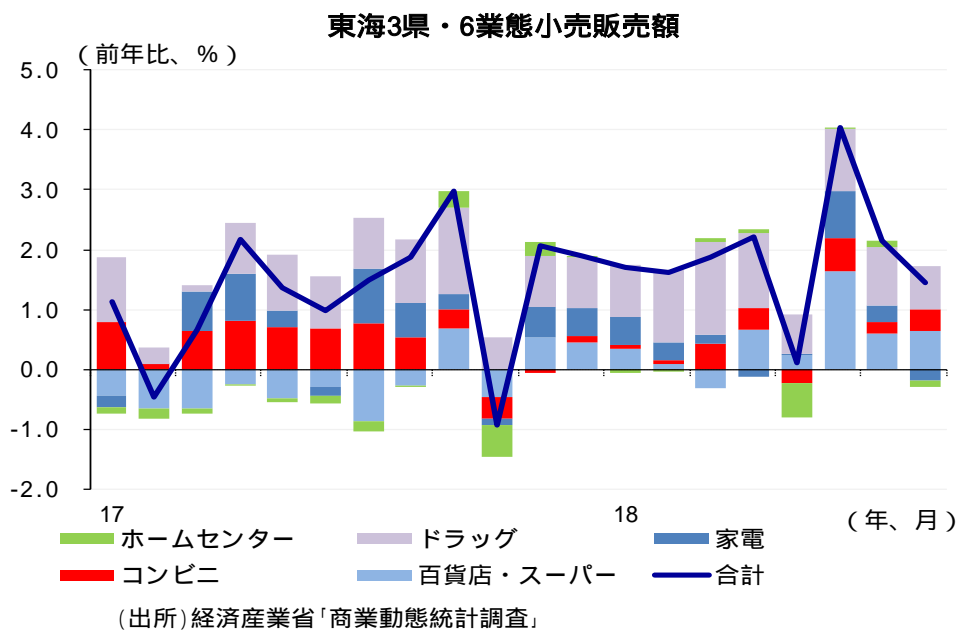
(注)東海3県(愛知、岐阜、三重)の指数はMURC試算。常用労働者数で按分し合成。
(出所)厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

7. 個人消費 ~ 持ち直しの動きがみられる (先行き: 緩やかに持ち直し)

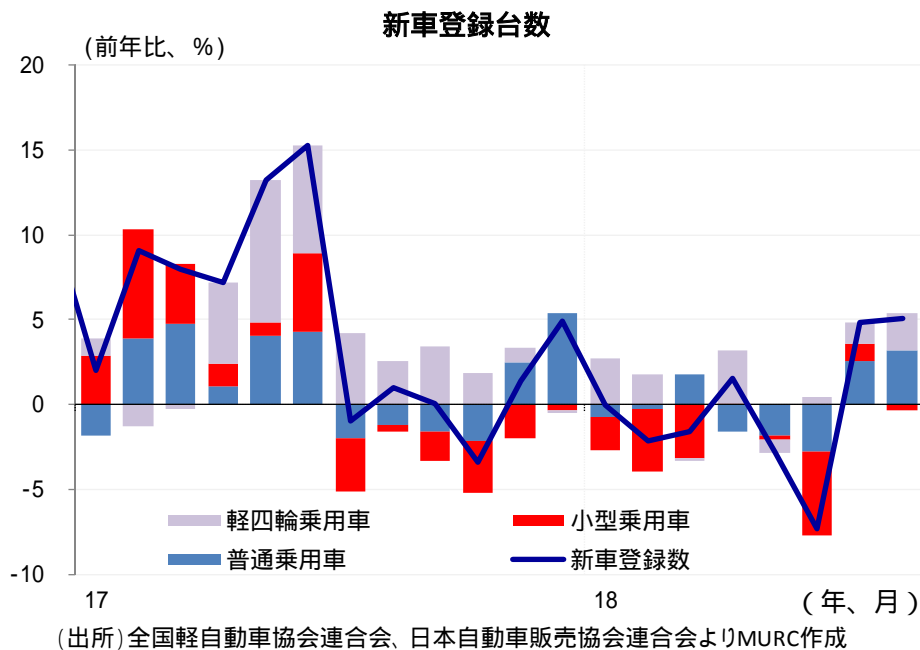
8月の名古屋市内の百貨店販売額(既存店)は前年比+3.1%と2ヶ月ぶりに増加した。台風などの下押し要因もあったものの、化粧品やその他高級ブランドの衣料品、バッグなど高額品も好調だった。同月の中部5県のスーパー売上高(全店)は同1.8%と10ヶ月連続で増加した。



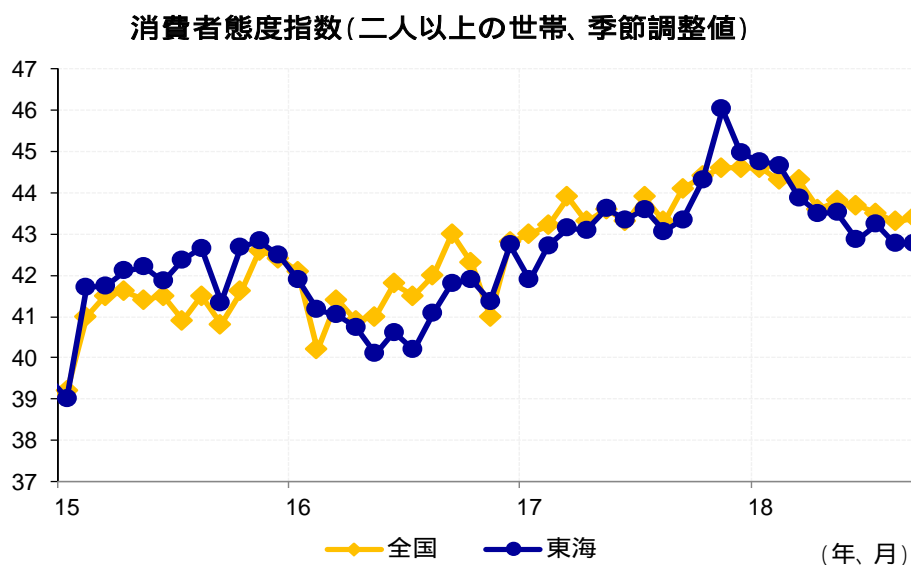
8月の商業動態統計調査6業態の販売額は、家電、ホームセンターが減少したものの、ドラッグストア、コンビニ、百貨店・スーパーが増加し、前年比+1.4%と10ヶ月連続で増加した。



8月の東海3県の**新車登録台数(乗用車、含む軽)**は、前年比+5.0%と2ヶ月連続で増加した。内訳を見ると、小型乗用車(同-1.0%)は2ヶ月ぶりに減少したものの、普通乗用車(同+8.4%)が2ヶ月連続で増加したほか、軽四輪乗用車(同+7.3%)の増加が続き、全体を押し上げた。

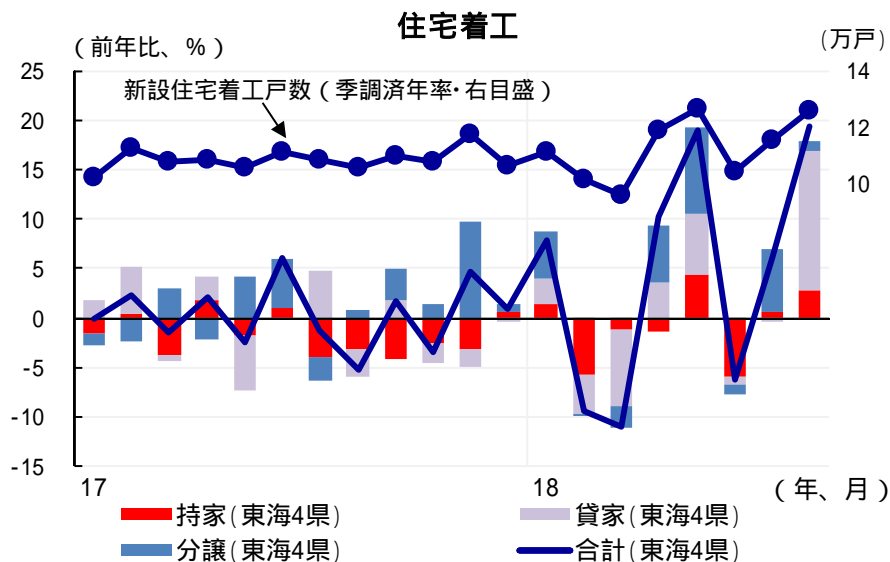


消費者マインドを表す**消費者態度指数**(季節調整値：MURC試算値)は、昨年11月をピークに弱い動きが続いている。



8. 住宅投資 ~ 持ち直しの動きがみられる (先行き: 横ばい)

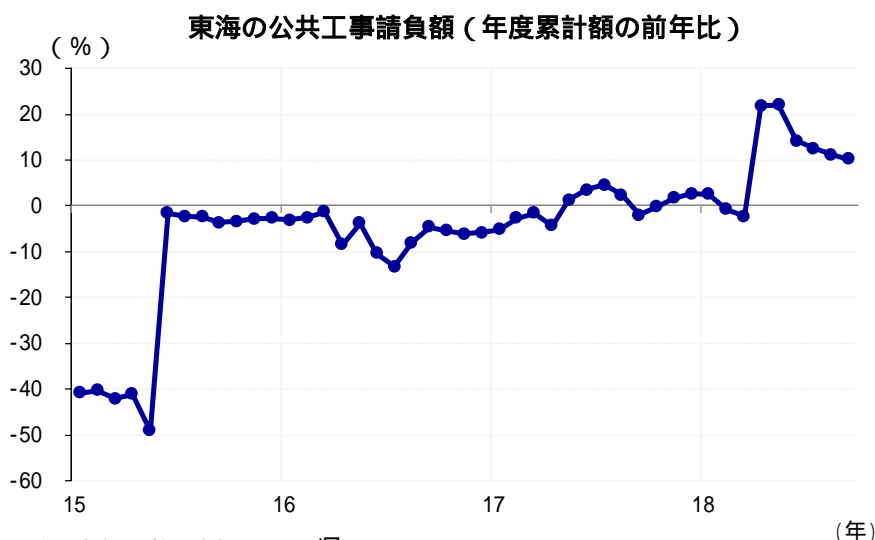
18年8月の東海4県の住宅着工戸数は、季調済年率で(MURC試算)12.6万戸と2ヶ月連続で増加、持ち直しの動きがみられる。原数値では前年比+19.5%の10,634戸と、2ヶ月連続で増加した。貸家、分譲、持家のいずれも増加した。



(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社による。
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

9. 公共投資 ~ 増加している (先行き: 増加)

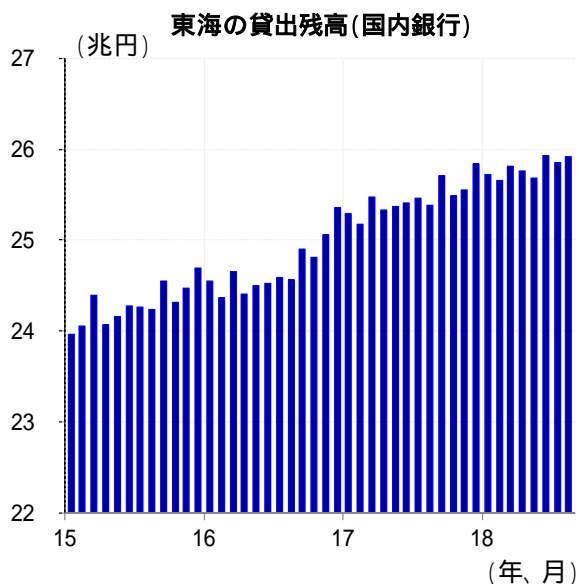
東海3県の公共工事請負額(年度累計)(4 - 9月)は前年比+10.1%と増加している。東海の公共投資は新年度入り後、増加している。9月単月では、同+4.0%の895億円と3ヶ月連続で前年を上回った。



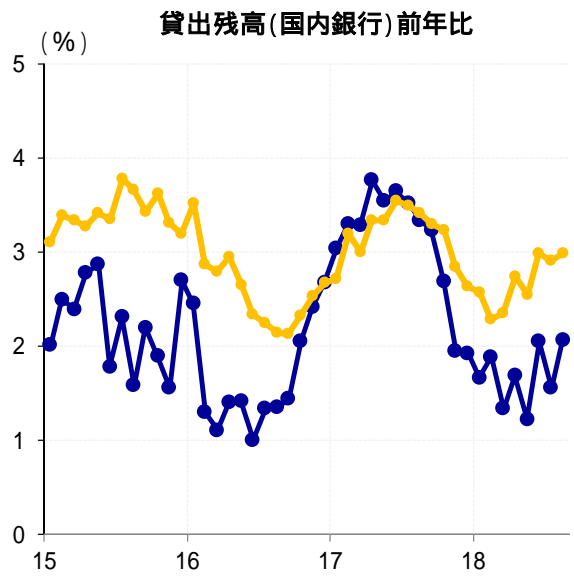
(注) 東海 = 愛知、岐阜、三重の3県。
(出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業者協会、北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

10. 貸出 ~ 貸出は増加

18年8月の東海3県貸出残高(国内銀行ベース)は、資金需要が持ち直している中、同+2.1%と66ヶ月連続で増加した。



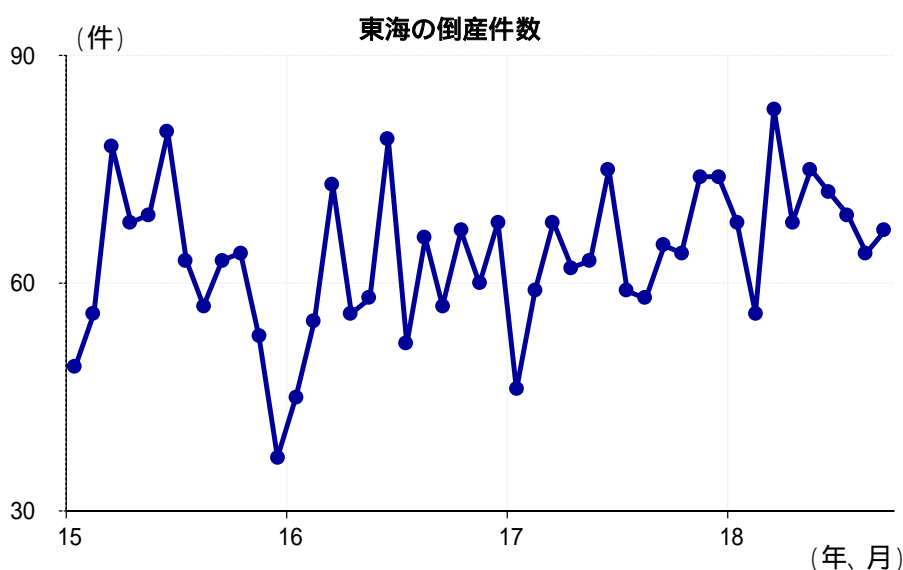
(出所)日本銀行



●東海 ●全国
(出所)日本銀行

11. 倒産 ~ 倒産件数は前年比増加

9月の東海3県の倒産件数は前年比+3.1%の67件(前年同月65件)と3ヶ月連続で前年を上回った。一方、倒産企業の負債総額は同-43.4%の72.9億円と5ヶ月ぶりに前年を下回った。



(出所)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。